

・深度10.31～10.57mの「粘土混じり礫状破砕部(Hj)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

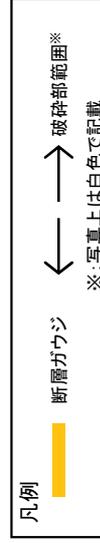
・深度10.57～10.72mの「礫質粘土状破砕部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度10.72～10.74mの「砂混じり粘土状破砕部(Hc-2)」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。

破砕部性状の記事

- 10.31～14.05m:破砕部(K断層)
10.31～10.57m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
上端45°、下端40°、いずれも不明瞭。明褐色を呈する。幅20cm程度。
10.57～10.72m:礫質粘土状破砕部(Hb)
上端40°、下端18°。灰黄褐色を呈する。幅10～15cm程度。
10.72～10.74m:砂混じり粘土状破砕部(Hc-2)
上端18°、下端18°。灰黄褐色を呈する。幅15～20mm程度。
10.74～11.45m:礫質粘土状破砕部(Hb)
上端18°、下端74°。灰黄色を呈する。幅50cm程度。
11.45～12.74m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
上端74°、下端18°。明褐色～灰褐色を呈する。幅80cm(推定)。
12.74～12.76m:砂混じり粘土状破砕部(Hc-2)
にぶい黄褐色を呈する。幅5～15mm。
12.76～12.94m:礫質粘土状破砕部(Hb)
上端18°、下端22°。主として変質作用によって岩盤が劣化し、灰白色を呈する粘土を主体とする基盤となる。灰褐色を呈する。幅20cm程度。
12.94～14.05m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
上端22°、下端26°。上下位に比べて酸化汚染を強く受け、褐色化がみられる。初生的な割れ目の大半は消滅する。岩芯まで岩盤が劣化し軟質(硬さE)となる。橙色を呈する。幅100cm程度。
13.94m:粘土状破砕部(Hc-1)
傾斜22°で湾曲する。軟質である。黄色を呈する。幅4mm。

コア写真



深度10.72～10.74mの連続性及び直線性が良い砂混じり粘土

0 5 cm

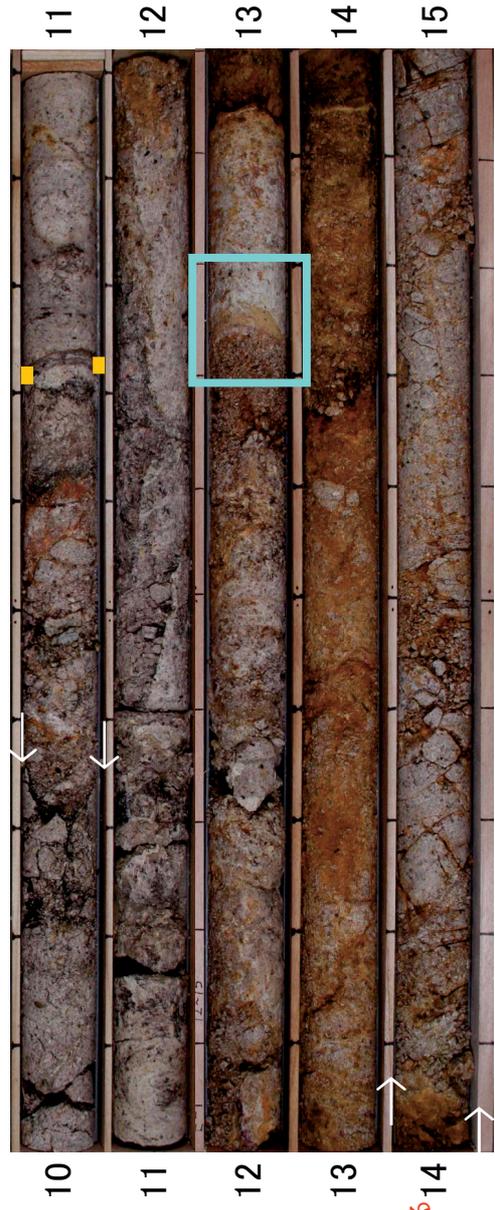
青枠部拡大

・深度10.74～11.45mの「礫質粘土状破砕部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
 ・深度11.45～12.74mの「粘土混じり礫状破砕部(Hj)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
 ・深度12.74～12.76mの「砂混じり粘土状破砕部(Hc-2)」と記載の箇所については、やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。

破砕部性状の記事

- 10.31～14.05m:破砕部(K断層)
 10.31～10.57m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
 上端45°、下端40°、いずれも不明瞭。明褐色を呈する。幅20cm程度。
 10.57～10.72m:礫質粘土状破砕部(Hb)
 上端40°、下端18°。灰黄褐色を呈する。幅10～15cm程度。
 10.72～10.74m:砂混じり粘土状破砕部(Hc-2)
 上端18°、下端18°。灰黄褐色を呈する。幅15～20mm程度。
 10.74～11.45m:礫質粘土状破砕部(Hb)
 上端18°、下端74°。灰黄色を呈する。幅50cm程度。
 11.45～12.74m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
 上端74°、下端18°。明褐色～灰褐色を呈する。幅80cm(推定)。
 12.74～12.76m:砂混じり粘土状破砕部(Hc-2)
 にぶい黄橙色を呈する。幅5～15mm。
 12.76～12.94m:礫質粘土状破砕部(Hb)
 上端18°、下端22°。主として変質作用によって岩盤が劣化し、灰白色を呈する粘土を主体とする基盤となる。灰褐色を呈する。幅20cm程度。
 12.94～14.05m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
 上端22°、下端26°。上下位に比べて酸化汚染を強く受け、褐色化がみられる。初生的な割れ目の大半は消滅する。岩芯まで岩盤が劣化し軟質(硬さE)となる。橙色を呈する。幅100cm程度。
 13.94m:粘土状破砕部(Hc-1)
 傾斜22°で湾曲する。軟質である。黄色を呈する。幅4mm。

コア写真



凡例

断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載



幅が膨縮する砂混じり粘土

水色 砂部拡大

- ・深度12.76～12.94mの「礫質粘土状破砕部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度12.94～14.05mの「粘土混じり礫状破砕部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度13.94mの「粘土状破砕部(Hc-1)」と記載の箇所については、軟質で、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。

破砕部性状の記事

- 10.31～14.05m:破砕部(K断層)
 - 10.31～10.57m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj) 上端45°、下端40°、いずれも不明瞭。明褐色を呈する。幅20cm程度。
 - 10.57～10.72m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端40°、下端18°。灰黄褐色を呈する。幅10～15cm程度。
 - 10.72～10.74m: 砂混じり粘土状破砕部(Hc-2) 上端18°、下端18°。灰黄褐色を呈する。幅15～20mm程度。
 - 10.74～11.45m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端18°、下端74°。灰黄色を呈する。幅50cm程度。
 - 11.45～12.74m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj) 上端74°、下端18°。明褐灰～灰褐色を呈する。幅80cm(推定)。
 - 12.74～12.76m: 砂混じり粘土状破砕部(Hc-2) にぶい黄褐色を呈する。幅5～15mm。
 - 12.76～12.94m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端18°、下端22°。主として変質作用によって岩盤が劣化し、灰白色を呈する粘土を主体とする基盤となる。灰褐色を呈する。幅20cm程度。
 - 12.94～14.05m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj) 上端22°、下端26°。上下位に比べて酸化汚染を強く受け、褐色化がみられる。初生的な割れ目の大半は消滅する。岩芯まで岩盤が劣化し軟質(硬さE)となる。橙色を呈する。幅100cm程度。
 - 13.94m: 粘土状破砕部(Hc-1) 傾斜22°で湾曲する。軟質である。黄色を呈する。幅4mm。

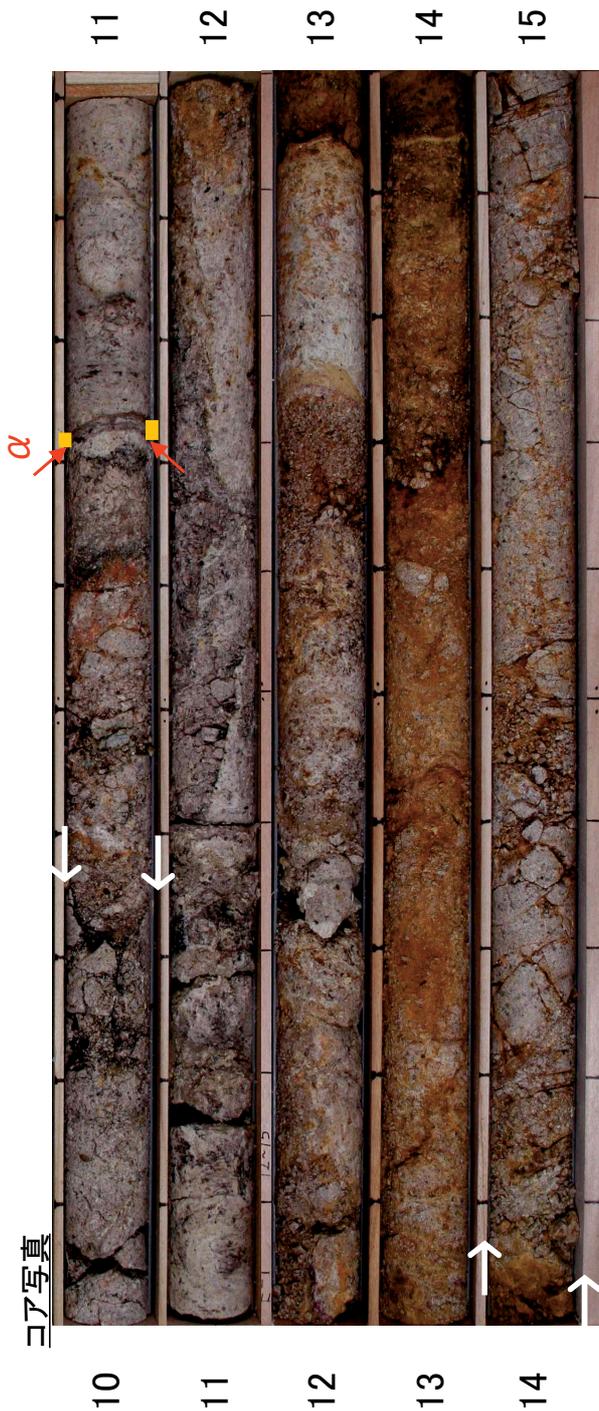
コア写真



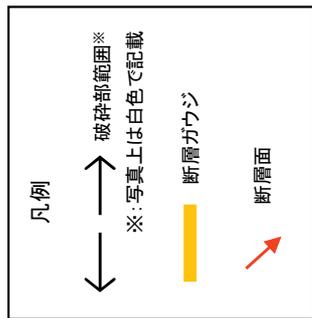
凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

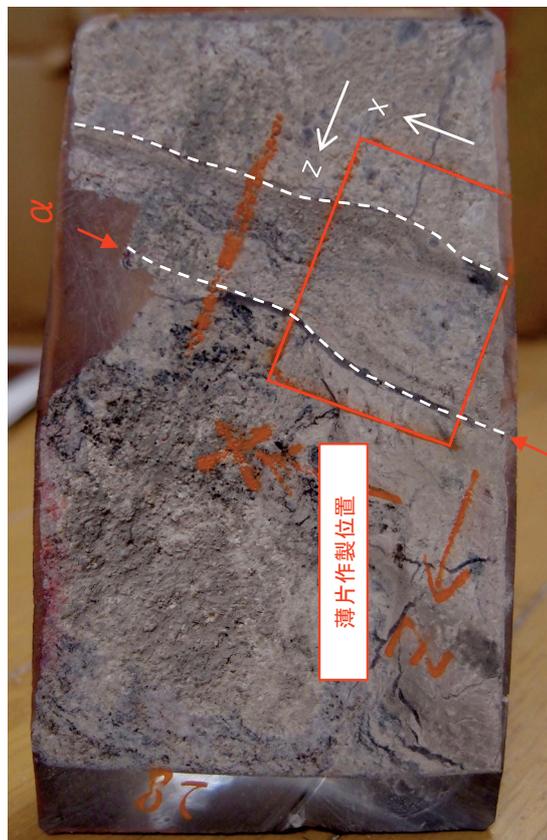
コア写真



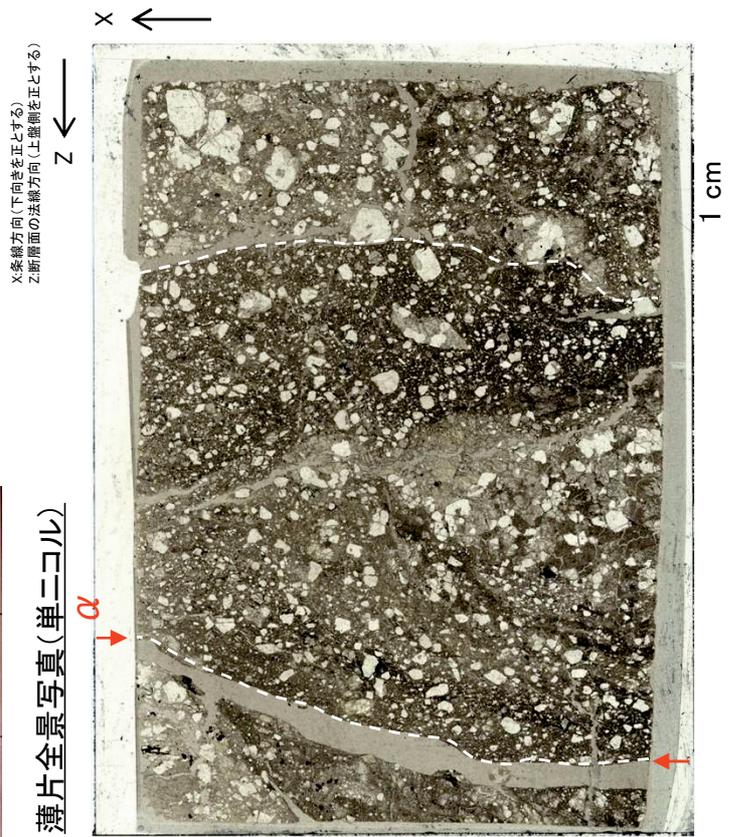
※断層面 α は最新活動面



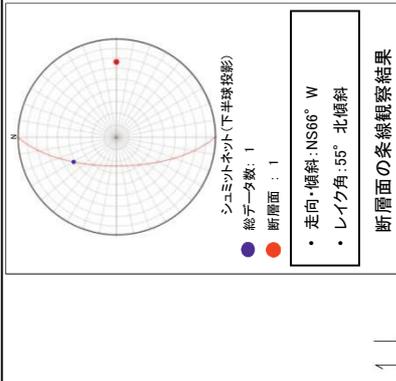
薄片作製位置写真



薄片全景写真(単ニコル)



・H24-E'-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 > (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 > (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 > (断層ガウジ)レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。
 > (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 > (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。



※断層面 α は最新活動面

